

2020年7月31日

割り勘とホフステードモデル

～日本人と中国人、いったいどちらが集団主義？～

～中国人にとっての『個』、『内集団』とは？～

=本編=

浅井 稔

(e mail : mi.asai@nifty.com)

<割り勘とホフステードモデル～その①>

今朝、ちよいと面白い事があったので、エッセー的に書いてみました。長いので今日、明日と二回に分けてお届けします。
(以下は私の個人的な経験をベースにこれまで感じてきた事を言語化しているだけのものなので、あくまでご参考として。)

いきなりですが今朝の我が家の会話。(話の前後は省略)

妻(中国人):『●●ちゃん(娘)、ママも日本に留学した時、友達とご飯に行って十円単位まで割り勘するのを見て、本当にびっくりした。日本人って、本当にケチだなあって。その点中国人は絶対割り勘なんてないんだよ。どんなにお金なくても、無理してでも誰かひとりが払う。今は日本のやり方にも一応慣れたけど、日本人みたいにケチだと中国では嫌われるからね。笑。』

娘(小5):『そっかあ。。中国人は気前良いね！日本人はなんでそんなケチで細かいのかなあ。』

私:『いやいや、それはケチって言うのとは違って。。(心の声:おいおい、娘に変な偏見、植え付けなくてくれよ。。)』

但し、長年の苦い経験を踏まえると、日本人はケチ、中国人は気前が良いと思い込んでいるこの目の前の頑固妻に、この場で不用意に何か言うと激しく返り血を浴びる事必至なので、忍び難きを忍んでその場は無言でやり過ごしました。。

ただ、妻の名誉の為に言っておきますが(笑)、多少頭が固いところはあるものの、まあ私の知り合いのそれなりに見識のある中国人でもまあ似たり寄ったりだというのが私の肌感覚です。

さて、なんとも苦々しい朝のやり取りでしたが、そのお陰で『これって、日本人が中国人よりもずっと個人主義であるわかりやすい例として使えるな！』とヒラメキました。例えばこんな風に。。

●想定問答(例:日本人はバリバリの集団主義と思い込んでいるA君との会話)

私:『なんで日本人って割り勘好きなのだと思う?』

A君:『だって、自分が食べた分は自分で払うの当たり前でしょ?』

私:『なんで当たり前だと思うの?』

A君:『そりゃあ、人に奢って貰ってばかりいたら悪いでしょう?』

私:『何が悪いの?』

A君:『だって不公平でしょ。他人にばかり『負担かけて』自分が払わないっていうのはさあ。。』

私:『その負担掛けるって感覚こそが日本人が『ザ・集団主義』と言えない一つの表れだよ。』

A君:『ん??何を言っているのかさっぱりわからないよ。。』

私:『つまりA君は、友達のお金(モノ)は友達のお金(モノ)、自分のお金(モノ)は自分のお金(モノ)と思っているという事だよな?』

A君:『そうだよ。当たり前でしょ、そんな事。やっぱり、何を言っているのかさっぱりわからないよ。。』

私:『一つ比較の為に例を出すと、例えば、中国人は基本的に割り勘というのはまずやらない(※最近の事情、特に若い中国人の場合は少々事情が異なるが。。)んだ。食事に誘った人、お金の余裕のある人等々、無論、何となく持ち回りで誰かが払うって事はあるけど、必ずしも厳密に今回は私だから次回はあなたって感じではなく、なんとなく(或いは先を争って)誰かが払ったりする。場合によっては同じ人ばかり払っているケースもある。』

A君:『ん??中国人ってそんな感じなの?? よくわからないなあ、中国人の習慣も。。』

続きは明日。。

<割り勘とホフステードモデル～その②>

昨日に引き続き、その②をお送りします。以下、私とA君の会話の続き。。

私 :『誤解を招くことを覚悟で、敢えて極端な言い方すると、『中国人にとって、友達のお金(モノ)は自分のお金(モノ)、自分のお金(モノ)は友達のお金(モノ)』。さらに言えば、情報や人脈も同じ。つまり、ヒト、モノ(含、情報)、カネが、友人関係やその外縁部(自分が直接知らないが、例えば友達の友達)まで、あたかもそれが共有財産であるかの如く扱われていて、これらが猛烈なスピードで彼らの間を駆け巡りながら、時に増殖しているという表現が適切ななあ。因みに、うちの奥さんの Wechat(中国版 LINE)のコミュニティのやり取りを見ていると、個人情報を含む、その情報の密度、スピード感たるや、凄まじいものがあるよ。つまり、自分と自分を取り巻く集団が一体化しているってわけ。ただ、今や感覚がかなり日本人化してしまっているうちの奥さんは、逆に辟易しているけどね。。』

A君 :『へ～～。となるとさあ、中国人には私有財産って概念があまりないの??』

私 :『いやいや、それは勿論あるよ。笑。ただ、日常の人間関係において、こういう『貸し借り』を繰り返したり、縦横無尽に広げていくことによって、人間社会が出来上がっているんだよ。これが所謂、『関係(グアンシー)』ってものかな。それに対して、日本人は、自分のモノは自分のモノ、友達のモノは友達のモノ、今日はおごってもらったら次回は必ず返さなきゃ! お見舞い貰ったらすぐお返ししなきゃ! だよな。すぐ借りを返す、或いは貸しを回収しようとするよね? これこそが、自分は自分、他人は他人と、それぞれ独立した存在と認識している証拠と言えないかい? 定義にもよるけど、これって、まさに個人主義という事にならないかな?』

A君 :『確かにそういうことになるな。日本人ってザ・集団主義だって思っていたけどそう言われると違う気がしてきた。でもさ、さっき、中国人の場合は仲間内であっても、いつも同じ友達ばかりが食事代を払う事もあるって言っていたよね? その払っている人は何だか私ばかり払うなんて不公平とか本当に思わないのかなあ?』

私 :『そう、そこがポイント! そもそも、さっき、『貸し借り』を繰り返し……って話をしたけど、中国人にはそもそも、日本人の思う狭義での『貸し借り』って概念そのものが希薄なんだよ。。毎回友達同士の食事代を支払っている人だって、別にみんなにタカられている訳ではないし、好きで払っている訳。だから、毎回奢って貰っている友達も、その彼に対して格別の感謝や恐縮、借りを感じている訳でもないんだよ。単純化すると、『俺、カネ持ってる。だから払う。以上!』、『俺、今カネない。ごちそうして貰った&楽しかった&美味しかった。以上!』みたいな。。笑。そこに『自分 VS 友達(含、友達の友達)』の線を明確な線がないからこそ、『いつお返ししてくれるかなあ?』とかあまり思わない訳。無論、限度はあるけどね。笑。つまり、これこそ奢る方も奢られる方もある意味一体化しちゃっているとも言えるよね? となると、これこそがある意味では集団主義って言えると思わない?』

私 :『自分の経験談になるけど、昔は中国人の友達や親戚と食事して、奢ってもらおうといつも『有難う! ごちそうさまでした!』と言うかどうかいつも迷っていたんだ。。勿論、中国人もこの様な場面でお礼を言ったりする事もあるけど、奢って貰っても何も言わずに何事もなかった様にそのまま出ていく事も多いんだよね。。笑。勿論、何でもすぐ口に出してお礼を言う日本人とそうでない中国人との差というのもあるかもしれないけれど、これって、さっき言った様に、奢られた方に、実は格別の感謝やらが無いからだって事にだんだん気づいたんだよね。。だから逆にこういう場でお礼を言う方が周囲から浮いちゃうって事もあるわけ。。今でも正直言えば、完全には慣れていないけど、特に中国の家族で食事するときは僕も全くお礼は言わないね。。笑。』

A君 :『でもでもさあ、じゃあ中国人ってお返しとかしない訳??』

続きはまた明日。。

<割り勘とホフステードモデル～その③>

昨日に引き続き、その③をお送りします。以下、私とA君の会話の続き。。

私 :『無論、さすがにそれはないよ～。例えば僕が昔上海に駐在していた時も、現地の得意先に宴会に招待してもらい、お礼の宴(答宴って言ったかな?)を開いたら、そのまた『答宴』があって、エンドレスで毎月のように宴会が数珠つなぎで開催されて、一番若手だった僕は、宴会アレンジに加えて毎回『飲まされ役要員』として乾杯攻撃の餌食になった苦い経験があるよ。。笑。』

A君 :『それじゃあ、やっぱり中国人だってお返しをするんだね。。そりゃそうだよな?』

私 :『いやいや、ただ今話した例というのは、ビジネス上の付き合いではよくあるケース。。プライベートな付き合いの場合、その『お返し』が概念がちよっと日本人のそれとはやっぱり違うんだよね。。よく、日本語でも『カネは天下の廻りモノ』っていうじゃない? 強いて言えば、あんな感じかなあ? 別に、B君がA君に奢ってくれたから必ずしもB君がA君にお返ししなくて良いわけ。つまり、日本人の様に便宜を与えた側と享受した側が必ずしも『一対一対応』しているわけではないんだよ。』

A君 :『つまり、僕が例えばB君から奢って貰ったら、B君にお返しするのでなくC君に奢ってあげても良いって事??』

私 :『ん～～、まあそう言えばそうなのだけだね。。繰り返しになるけど、要は奢っている方も奢られる方も、便宜を与えている、享受しているって意識が一般的に希薄なので、そういう持ち回りの発想というのともちよっと違う訳。強いて例えるなら、日本でも、先輩や上司が奢ってくれそうになった時にお代を出そうしたら、『いいよ、いいよ。いずれA君がいつかどこかで後輩に同じ様にしてあげればいいから気にするなって!』とか言われたことないかな? 中国では、たとえ(先輩後輩とかでない)フラットな人間関係(ex.同級生同士等)であっても、『長期スパンで広範囲な持ち回り』が、これと言って特段の構えた意識もなく行われているって感じがあるんだよね。。』

私 :『まあ、そんな感じで、お金持っていればそれを出す、使える権力やコネ持っていればそれを使う、お役立ち情報(含、個人情報やそれから派生するコネ)があればそれを提供する。みんながそういうものを臨機応変にバンバン出し合いながら、もちつもたれつで回っているのが中国社会。もちろん、全くの見も知らずの他人とそんなことはしないよ。でも友達の友達とか、そのまた友達とか、ちょっとでも自分と縁が出来た人とは、こういうもちつもたれつのサイクルが猛スピードで回転し始めるわけ。そして、その頻度や密度が濃い人間同士の間で出来るものが、いわゆる『関係(グアンシー)』と呼ばれるものなわけ。これはまあ僕の解釈だけど、まあそう大きく外れていないとは思うよ。。。』

A君 :『ん～。そっか、つまり極端に言えば、『友達のお金(モノ)は自分のお金(モノ)、自分のお金(モノ)は友達のお金(モノ)』なんだね。。』

私 :『という訳で、日本人って実はバリバリの集団主義ってわけではなく、もっともっと集団主義と言える国があるという事をわかってもらえたかな?ただ、集団主義、個人主義という話は、文化を語る際、ある意味、誰でもがイメージしやすい話であるが故に、その用語の定義がかなり人によって(研究者の間でさえ)ぶれる傾向がある。定義をしっかりと共有した上でないと議論がかみ合わないの、そこは注意しなければならないけどね。。。』

A君 :『うん。中国の例との比較も聞けたお陰でやっとな腹落ちしたよ!有難う～。』

私 :『良かった！じっくり聞いてくれてありがとう。同じ様な説明を日本人はケチ、中国人は気前がいい！と思い込んで
いるうちの中国人の嫁さんにも話してみたいんだけどねえ。。笑。まあ、関係が近すぎるが故にどうせ真面目に聞いて
くれないことはまあ間違いない。『そんな小難しい屁理屈言っている暇あったらさっさと娘の宿題見て頂戴！』って
一蹴されて終わりだよ。たぶん。。あ～近くて遠い国、中国。。。』

私 :『ちなみに、この割り勘というやり方が一般的かどうか、その国の人たちが集団主義よりか個人主義的よりかを
見分ける一つの有力な指標になるんじゃないかと僕は密かに興味を持っているんだよ。だけど、デートの時や、
上司や先輩と食事に行った時の支払いのやり方とかは除外しないとだめだけどね。』

A 君 :『ん？ どうしてだい？』

私 :『デートや上下関係のある人との食事も含めると、いわゆるその国のジェンダーとか、権力格差と言った別の次元の
要素が混じってしまうからね。。だから、『自分と同性、且つフラットな関係性にある人との食事代をどう支払うか？』に
ついてのアンケート調査を世界各国で横並びにやってみたら面白いと思うんだ。実は、ホフステードというオランダ
の学者が世界 70 か国以上で同時に行った大規模なアンケート調査の結果を元に、世界何十か国の国を集団主義
寄りなのか？或いは個人主義寄りなのか？を示したデータがあるんだよ。そこでは、中国は相対的にかなり集団主義
寄り、一方の日本はどちらとも言えない真ん中辺りという結果。因みにアメリカは世界の中でも圧倒的に個人主義
という結果が出ている。そのデータと、このアンケート調査結果を照らし合わせてみたらかなり相関関係があるんじや
ないかと予想している。まあ、既にどこかの学者がやっているかもしれないけど。。』

A 君 :『へ～～！日本が世界の中では相対的に特に集団主義寄りでもないっていう結果はすごく意外！アメリカの思いっ
きり個人主義っていうのはなんとなくイメージと合致していたけどね。笑。それにしても、中国人って随分日本人と
違って面白いな。でも、なんかもちつもたれつっていうのもいいなあ。最近の日本の何というか殺伐とした人間
関係に比べたら、温かそうでいいかもね。』

私 :『そうだね！僕もそう思うところが沢山あるよ。。中国の友達や親戚と会っていると本当に温かくて変に遠慮もしないで
いいし、心地いいなあって思う事がたくさんあるね。。でもね、社会という単位でみると、こうした中国人、というか集団
主義の特性は良い事ばかりではなく、時には必ずしも好ましくない方向に働いてしまう事もあるんだよ。。』

A 君 :『え？どういうこと？？？』

続きは明日。

<割り勘とホフステードモデル～その④>

昨日に引き続き、その④をお送りします。以下、私とA君の会話の続き。。

私 :『さっき、A君は、極端に言えば中国人の間では『友達のお金(モノ)は自分のお金(モノ)、自分のお金(モノ)は友達のお金(モノ)』だっていうこと、納得してくれたよね?』

A君 :『うん、納得したよ。』

私 :『無論、当然ながらこれは家族や親戚と言った関係でも同じことが言えるんだ。あと繰り返しになるけど、お金だけでなく、その人の持っている権力(権限)とか人脈(コネ)、情報といったものも、まあ同じ様な扱いになるわけ。でも、ここでちょっと考えてみて欲しいのだけど、こういったものが自分を取り巻く近い関係の人たち、ここからは内集団の人たちって呼ぶね。緩～く、広く共有されるとどんな事が起こると思う?』

A君 :『ん～。さっき好ましくない方向に。。。と言っていたよね。となると、そうだなあ、例えば賄賂や裏口入学、インサイダー取引とかの温床にもなるってこと?』

私 :『鋭いね、その通り!。このもちつもたれつの互助集団である内集団というものは、ともするとその内集団の利益のみを追求するいわゆる利益集団となってしまう側面もあるわけなんだ。ただ、互助集団(語感良し!)と呼ぶのと、利益集団(語感悪し!)と呼ぶのでは、随分とニュアンスが異なるのだけれども、無論その両者の間に明確な線引きがあるわけではないんだよね。。この辺りが非常に難しい。。』

私 :『とにかく中国では、誰もが生まれた時から地縁や血縁といった形で、こういうネットワークに組み込まれていて、更に成長するに従って自ら独自の内集団を開拓し増殖させながら人生を送っていくのが基本。その内集団の助けがなくては、日常生活もビジネスもとてもじゃないけど成り立たない。だから、基本的に自分にとっての内集団を裏切らない事、それこそが中国社会で生きていく上での大原則になるんだ。端的に言えば、中国では個人と集団の境目が極めて曖昧模糊としているって事かな。』

A君 :『そうなんだ。。。何だか聞いていると、さっきの印象とは打って違ってなんか中国での人間関係って、息が詰まりそうだなあ。。人間関係でがんじがらめって感じがする。。勿論、日本だって一人じゃ生きていけないし、コネだつてないよりあった方がいいけど、別になくても自分で頑張れば何とか生きていけるしなあ。。。』

私 :『確かにA君に言う事も一理あるね。。実は、うちの奥さんもそういう中国社会の中でやっていく気持ちに今一つ慣れなかったことが、日本に居ついた一つの理由でもあるんだ。。』

私 :『とにかくにも、内集団の中においては、最初に話した食事代の話が象徴している様に、要するに、『カネ持っている人は使いなさい、力持っている人は出しなさい、コネ持っている人は使いなさい、情報持っている人は出しなさい』と言った暗黙の合意があるわけ。逆に言えば、内集団の他のメンバーが持たないものを持っているにも拘らず、それ相応の還元をしない人間は、集団内で全く評価されないし、いくらお金や地位があっても人でなし呼ばわりされて皆が離れて行ってしまう訳。』

A君 :『そうか、中国はコネ社会って聞いたけど、そういう背景があるのか。でもさ、それだと本当に公私の区別が付かないよね。会社の機密情報だつて、それが内集団のメンバーも求める情報だつたら提供しなきゃいけない訳でしょ?』

私 :『まあ、ざっくり言えばそういう事にもなるね。。笑。ところで、A君、いまいいポイントに気づいたね。『公私の区別』って日本でもよく使うよね。あいつは公私の区別かなつとらん！とか。。公私の『私』の定義の日本や欧米諸国との違いが、が実は中国社会をざっくり理解する為の大事なポイントなんだ。もうちょっとイメージが湧きやすい様にここで一つたとえ話をするね。』

私 :『たとえばA君は、週の殆どを客先に訪問する外回りの営業マンとするね。その為、オフィスへの通勤や外回りの為に社有車を貸与されて特別に家まで毎日乗って帰っても良いと言われたとしよう。更に、外回り先も毎晩遠くて帰宅が遅くなるので大きく通勤ルートを外れなければ、行き先と日付を記録する事を条件に、買い物等のプライベートの用事に使う事も許可されたとしよう。さてさて、ある暇な日曜日、近所で世話になっている夫婦(←A君の車は社有車だという事を知っている)が海外旅行に行くので、成田空港まで車で連れて行ってくれないか？と言われたとする。A君だったらどうする？』

A君 :『ん？それはちょっと迷うなあ。。。いくら世話になっていると言っても、それって公私混同だよな。申し訳ないけど丁重に断るね。。というか凶々しすぎるよ、その夫婦。。だって社有車だけ。。』

因みに、上記のたとえ話は、私の義弟(妻の妹の旦那)の取っている行動をベースに脚色したものです。さて、仮にA君が典型的な中国人だったらどの様な行動に出るのでしょうか？ またその行動を取る理由はどうしてでしょうか？

続きは明日。。

<割り勘とホフステードモデル～その⑤>

昨日に引き続き、その⑤をお送りします。以下、私とA君の会話の続き。。

私 :『そう思うよね～～。笑。でも、そこがポイント。A君が中国人だったら、まあかなりの確率で、『OK！いいですよ～！』ということになる。中国人にとっての『私』とは、無論個人差はあるけれども、私自身、或いは自分の妻子というレベルではなく、往々にして内集団の全ての人が含まれちゃう事もあるわけ。だから、この様に二つ返事でOKにも十分なり得るんだ。さっき言った様に、車持っているのにそれを提供しないっていう発想は基本的にないんだよね。』

私 :『まあ、中国人の日々の生活って一事が万事こんな感じで営まれている訳なんだ。。ところが、A君も既に薄々気づいているかもしれないけれど、こういう事が無意識の中で行われているとどんな事が起こると思うかな？ そう、中国においても法律上の考え方や規定とはどうしても、乖離、衝突が起きてしまうんだ。ご存じの通り、世界の大半の国の法体系は基本的に欧州が起源となっているよね？大陸法やコモンローという区別はあっても、どちらも『個人主義』の文化から生まれたもの。ちなみに日本も中国もベースは大陸法。だから、『個』とか『私』が意味する概念が極めて限定的な個人主義の文化で生まれた法体系が、そもそも中国(を含む集団主義文化の国々)にうまくフィットするはずがないんだ。。。』

A君 :『つまり、中国では伝統的な人の価値観や行動様式とは相容れない法体系の下で暮らしているってことになるの？』

私 :『ざっくり言えばそういう事になるね。無論、中国流に種々かなりアレンジはされているけどね。。ところで、また一つ極端なたとえ話になるけど、もう一つ。例えばさっき話が出たインサイダー取引。A君はある近々上場予定のある未公開株に関する情報を持っているとするよね。当然ながら家族にさえそうした情報は話してはいけない。それは中国の法律でも同じ。でも、伝統的な中国人の感覚では『私の中に留める』とは、往々にして『私一人の中に留める』という意味にはならない訳。。だから、法律では禁止されている事は一応知識としては知っていても、どうしても感覚がついていかに、半ば無意識の内に法に触れてしまう事も多いというのが実情なんだ。。勿論個人差はあるけどね。。よって、やっている事は同じでも、日本人でインサイダー取引をする人は、もっと罪の意識を認識しつつ、いわば確信犯でやってしまう人の比率はずっと中国より高いと思うよ。』

A君 :『中国は未だに法治主義が根付かず、人治主義の国だって聞いたことがあるけど、そういう背景もあるんだね？』

私 :『人治主義と言われる全ての理由がこうした理由ではないけれど、この『私』の範囲がいわゆる欧米諸国とは大きく異なる事が大きな理由の一つとは言えるね。。ただ、僕は20年位前に四国の片田舎の市町村をぐるぐる廻っていわゆるドブ板営業した経験があるんだけど、多少の程度の差こそあれ、日本の田舎もこの辺りの事情はあまり変わらなかったな。。良くも悪くも極めて密な人間関係を基盤にヒト、モノ、カネ、コネが町全体をぐるぐる回っていて、コンプライアンス的にはこれは危ういなあと思う場面は何度も遭遇したよ。日本も、欧米諸国に比べれば随分と集団主義的な傾向が強い国と言えるから、まあこれも当たり前と言えば当たり前だけだね。まあ余談ながら、この仕組み自体が、日本市場や中国市場に進出したいと考える欧米企業にとって非関税障壁となり、結果的に国内産業の保護に役立っているという側面は確かにある。。笑。この話をし始めるとまたどんどん話がそれてしまうので、ここでやめておこよ。』

A君 :『そういえば、君は中国にも駐在した経験があるって言っていたよね？ やっぱその辺りで苦労したりしたの？』

私 :『そりゃあ苦労したよ。。工場建設や研究所建設の様な、いわゆる箱物プロジェクトの推進を沢山担当していたのだけれど、そうすると、やっぱりいろいろとカウンターパートの内集団絡みのしがらみにもあれこれ遭遇するわけ。。そんな中でも、こちらは日系企業だから現地政府や現地企業と同じ(緩い)基準では絶対に行動してはならない。『この位、まあいいんじゃない?』という悪魔のささやきとの闘いの日々だったな。。』

私 :『まあ纏めると、A君に理解して欲しかったのはこういう事なんだ。日本人の一般的イメージでは、中国は汚職あり、口利きあり、なんでもありの腐敗大国ってイメージを持っている人がかなりいるんだけど、決して水戸黄門に出てくる悪代官や桔梗屋みたいに性根が腐った人間がそこら中にゴロゴロいるというわけでは無いという事。つまり、別に取り立ててモラルが低いという訳ではなく、あくまで長い歴史を通じて培ってきた人と人との距離感が欧米とかけ離れている事が原因で、『無意識』の内に、『法律上では犯罪とされる行為』に及んでしまう人たちも多いという事実があるという事なんだ。』

A君 :『なるほどなあ。。表面的に見えている事象自体は同じでも、そういう背景を知っているのと知らないのでは見え方が違うね。。』

私 :『ただ、難しいのは、仮に中国がある程度の口利きも賄賂もそれは中国の文化だ!と言ったところで、欧米の個人主義の価値観やシステムが支配するこの世界では、そんな理屈はまるで通らないわけ。笑。だから、思いっきり集団主義の中国はもとより、集団主義か個人主義か、どっちとも言えない日本でさえも、どうも押し付けられた感を感じつつも、欧米のやり方に合わせざるを得ないのが現状なんだ。』

A君 :『企業や経済のグローバル化で、どんな分野でも何かって言うとグローバルスタンダードって言葉が独り歩きしているけど、その実行となると簡単じゃないって事か。。』

私 :『その通り! 例えば、グローバルでのコンプライアンス体制を構築すると言っても、ある同じ違反をするに当たって、その行為を罪の意識を十分感じつつ、どうしても誘惑に負けて違反する人の比率が多い国と、なんでそれが違反なのかも感覚的に理解できないまま違反する人の比率が多い国とでは、具体的な啓蒙の仕方や仕組みづくりも全然違って来るよね。つまり、そのグローバルスタンダード(と言っても実際には欧米基準)に対して、対象国が文化的にどの様にどの程度乖離があるかという事を、表面的な事象だけでなく、その違反を起こす背景&心理のところまで理解して対策を講じていかないと、全ての対策が絵に描いた餅になってしまいかねないと思うんだ。』

A君 :『なるほどね～～。。結構中国に対して誤解していたところが多かったかも。勉強になったよ。でもさあ、全く違う話で恐縮なんだけど、中国のコロナ対策ってすごいよね。人々をGPSで管理して、いつどこで何をしているか全部把握しているんでしょ? 感染対策としては優れていると思うのだけど、あれはひどいね。完全に人権無視だよ。。怖ろしいよな。。日本では考えられないよ。』

私 :『中国は人権無視か。。笑。これも中国に対してのあるあるの誤解ネタだね。。』

A君 :『ええ～～? どういう意味??』

この続きは明日。。

<割り勘とホフステードモデル～その⑥>

昨日に引き続き、その⑥をお送りします。以下、私とA君の会話の続き。。

私 :『まず、『人権』という事で一括りにすると話が拡散するので、ここでは『個人情報』という事に絞って話す事にするね。そもそも、A君はこの『個人情報』が何から何まで政府に把握される事が人権無視だって考えているんだよね？そもそも、本当にそう断定できるのかな？』

A君 :『それは当たり前でしょう？だって、自分が何月何日何時何分にどこに行って、何を買ったとか何を食べたとか全部国に知られちゃうわけでしょ？そんなのどう考えてもおかしいよ。それって世界中どこの国の人に聞いたって人権侵害だって思うはず。やっぱり中国ってかなり個人の人権が侵害されているし、抑圧されていると思う。それは間違いないんじゃないの？』

私 :『『個人』の人権か。。そうだね。。確かに、僕もこのスマホ社会になってから中国の状況というのは、あまりにも個人情報を一括管理されすぎて、ちょっと恐ろしい気がするし、行き過ぎの面も多々あるとは思う。だけど、ここで再度確認したいのだけど、そもそも中国人にとっての『個』の定義ってどういうものだったっけ？』

A君 :『あ！。。。君が何を言いたいのかなんとなく判ってきた気がする。。笑。』

私 :『そう！鋭いね。。繰り返しになるけど、中国人にとっての『個』とは往々にして『自分を取り巻く内集団の人間』全てを含んでいるんだ。だから、そもそも、『私自身』の情報が人に知られる事に対する抵抗って日本人よりもずっとずっと小さいんだよ。勿論、個人差や都会ー田舎の違い等はあるけどね。A君は東京育ちだからあまりピンと来ないかもしれないけど、日本だって、ちょっと小さな町や村に行けば、『Oさんのところの息子のA君が昨日、コンビニでエッチな本を見ていたわよ～。あの子も年頃になったわね～。』なんていう情報は次の日にはあつという間に近所に広まる。あれも悪い言い方すれば、一種の監視社会そのもの。』

A君 :『確かにそうだね。。NHKの『鶴瓶に乾杯！』なんか見ても、ほっこりしたい番組だけど同じにおいを感じるよ。。笑。』

私 :『だよね。という訳で、そもそも一口に『個人情報』といっても、中国人のイメージするそれは、日本人のイメージするもの全く違うし、ましてや欧米等と比べたら著しく隔たりがある事だけは間違いない。だから、表面的な事象だけを見て、自分らが思うのと同じ様に、一般の中国人が感じていると思ったら大間違い。。実際にその国の人たちがどう感じているか？って知る事はなかなか難しいけど、殆どの日本人が信じて疑わない『個人情報保護は保護されるべき！』という考えも、所変われば通用しないって事だけは頭の片隅に置いて置く必要があると思う。』

A君 :『確かにそうだね。。いやいや、だけどさあ、『自らの内集団内部』に個人情報が共有されると、『国家』に把握されること事は意味合いが違うんじゃない？』

私 :『勿論その通り。ただ、『国家とは何か?』という様な、ちょっと小難しい話になってしまうのだけど、中国の場合は、こういった規模も種類も多様、且つ中国国内に無数に重なり合って存在する内集団の集合体として、今の中国政府や、その上に君臨する中国共産党が存在しているとも言えるわけ。また話がそれで恐縮だけど、この限りなくフラットに増殖し続ける内集団をベースにした集団主義と、権威主義(権力格差の高い)社会というのは、一見矛盾するようで実は非常に親和性が高いんだよ。それはなぜか?って話になると、それだけでまた時間がかかるのでまた別の機会に話すね。さてさて、自分の中国人の友人や妻の意見なんかを聞いていても、自分とそれを取り巻く相互扶助集団である内集団の生活・経済活動の安心・安全の確保を最も重視している事はどうも間違いない。だから、例えば今のコロナ禍の様な非常時においては特に、『内集団の利益(≒国家の利益)の優先!』という感覚が日本人よりもずっと強い事はひしひしと感じる。だからこそ、個人情報を集約してそれが担保されるのなら別に問題ないよね?といった反応が大勢だね。』

A 君 :『いや、なんとなく腹落ちしてきたよ。。でもさ、でもさ、中国政府って巧みに収集した個人情報を利用して、少数民族や人権派弁護士の弾圧なんかを露骨にやっている話もよく報道されるじゃない??これについてはどう思う?』

私 :『そうだね。。その辺りにかなり入り込んで取材している学者や記者の友人の話も聞いても、今の中国政府のやり方に問題も多い事はやはり確かだと僕も思う。ただ、それはそれとして、個人的に非常に問題だと思うのは、例えば、人権問題等で中国を非難する側、その非難に応酬する側(中国)のやり取りを見る限りでは、ここで話してきた様な根本的な文化や価値観の違いを本当に互いに認識しているとは、少なくとも僕にはまるで思えない点だね。。』

A 君 :『ん?具体的にはどういう意味?』

私 :『例えば、米国は米国で一方的に、『普遍的人権を踏みにじる中国はけしからん!』、あたかも米国の考える人権が全人類にとって普遍的であるかの如く押し付ける、中国は中国で売り言葉に買い言葉で、『中国には中国独自の人権がある!』それでは議論の仕様が無い。お互いが自らの考える人権の定義とは何か?そう定義する根本的背景にまで踏み込んで、まず説明を尽くさなければ、永遠に議論の為の土俵を作れないと思う。ただ、米国が『人権』を単なる外交カードとしてしか考えていないのならばどうにもならないけどね。』

A 君 :『なるほどなあ。。お互いに意見の異なる相手にモノを言うのは自由だけれど、文化や価値観を一致させる事なんて不可能なのだから、そんな中で本気でどこかに着地点を見つけるには、相手の表層的な行動だけを見て安易に反応するのではなく、まずはその行動の背景にある価値観、その価値観を形作った根本要因に至るまで徹底的に寄り添って考えなければダメだって事か?』

私 :『そう、その通り!交渉事で100対0で勝つなんて絶対あり得ない訳で、特に外交の世界では51対49で勝てば万々歳っていうじゃない?。。仮にいくらウイグル人への弾圧がひどいとしても、もし本当にそれを改善したいと思うなら、政治的駆け引きだけに終始するのではなく、相手のもっと根源的な行動原理についての深い掘り下げと理解がなければ、本当に効果的な交渉戦略だって見えてこないんじゃないかと思うわけ。』

A 君 :『確かにそうだな。。割り勘の話から始まってなんだか随分大きな話になっちゃったね。。笑。』

私 :『そうだね。。ちょっと、頭の整理の為に何を話してきたか、そろそろ何を話して来たかまとめてみようか。。』

今日はこの辺で。。続きは明日。。

<割り勘とホフステードモデル～その⑦>(最終回)

昨日に引き続き、その⑦をお送りします。以下、私とA君の会話の続き。

私 :『さて、中国では割り勘は一般的ではないのはなぜか？という問いから、日本人は実はそんなに集団主義でもないという話や、その一方で中国は非常に集団主義の強い国である事、そしてその中国の集団主義のベースを形成している『関係(グアンシー)』の特性、更にはそこから見出せる個人主義文化と比較した場合の『個』や『私』の概念の隔たりといった事をあれこれ事例を挙げながら話してきたね。僕が今回の話を通して伝えたかったことは要約すると以下の様になるかな。』

●これまでの話のポイント

1. 日本人はなぜバリバリの集団主義とは言えない？

友人のカネ、モノ、コネ、情報は友人のモノ、自分のカネ、モノ、コネ、情報は自分のモノと考える傾向強し
→友人と貸し借りの関係を築く事を嫌う(≒相互依存関係を結ぶ事に抵抗ある≒個人主義的気質)

2. 中国人はなぜ集団主義と言える？

友人のカネ、モノ、コネ、情報は自分のモノ、自分のカネ、モノ、コネ、情報は友人のモノと考える傾向強し
→友人と貸し借りの関係を築く事を好む(≒相互依存関係を築く事に安心感を持つ≒集団主義的気質)
(※貸し借り行為自体が、必ずしも日本人の様に貸しの提供主体と借り受領主体の間での『1対1対応』を成さないケースも多い。(ex. A氏はB氏からの借りをC氏に返すも可能な場合あり。)
→故に、その貸し借り関係自体が長期に渡り継続したり、『貸し借り』の概念そのものが希薄となる傾向あり。

3. 中国人の集団主義のベースとなる『関係(グアンシー)』とは？

上述の要素に関わる『貸し借り』行為が、常に互いに『惜しみなく』、『縦横無尽に』、『継続的に』行われている内集団に、地縁や血縁なる形で中国人は生まれた時から組み込まれる。更に成長にするに連れ、自らの関係する様々な社会集団(ex.学校、職場等々)を通じ、独自の内集団を開拓、増殖させていくもの。中国人の人生を送る上での最重要基盤。

4. 中国人にとっての『公私の区別』とは？

『私』、『個』という言葉に含まれる対象の定義が、個人主義社会(主に欧米諸国)や日本のそれとは大きく異なる。中国人の(少なくとも人々の意識上の)定義においては、その一個人だけでなく、その個人を取り巻く多くの内集団の間をも含むケースが多々あり。

5. 個人主義文化の『個』と中国の『個』の概念の隔たりが生む問題とは？

現代に於いて、世界的に政治やビジネスのフィールドにおいて支配的な価値観、法体系、様々なスタンダードとされているものの殆どは欧米の個人主義文化発のもの。故に、中国を含む集団主義の文化の国々は極端に言えばその下に従属させられているのが実情。どちらが良い悪いではなく、この根本的な価値観の違いへの深い考察の上立った共通認識をまず作り出し、その上で新たな第3の価値観の模索を両者が協調して志向しなければ、個人間のみならず、国際政治や国際ビジネスの現場で様々な摩擦(ex.人権問題、コンプライアンス問題)も本質的な改善は難しい。

A君 :『ありがとう。うん、これで頭の中がきちんと整理出来た。なんだか、割り勘の有無なんていう非常に身近な話題でも、どんどん掘り下げて考えていくと、いろいろな事が見えてきたりするものなんだね～。ちょっと小難しかったけれど面白かったよ。ところで、割り勘とホフステードって言う割に、ホフステードってちょっとしか話に上らなかつたね。笑。』

私 :『そうだったね。その話を少ししておくね。ホフステードは、世界の国々で行った膨大なアンケート調査を元にこれらの国々を6つの次元(①権力格差、②集団主義 VS 個人主義、③男性性 VS 女性性、④不確実性回避、⑤長期志向 VS 短期志向、⑥放縦志向 vs 抑制志向)という切り口で、各々の国の国民文化を初めて数値化したすごい人なんだ。日本人と中国人の集団主義のスコアの違いもデータできちんと示されているというのは話した通り。』

A 君 :『へ〜〜！それは便利だね。。いろんな国の文化の違いが立ちどころにわかってしまうんだ！面白そう〜。』

私 :『そうだね。ホフステードの異文化理解に対する貢献って本当に偉大としかいいようがない。でも、逆にそこが落とし穴。一見便利に見える道具程、よほど気を付けて使わないといけない。』

A 君 :『ん?? どういう意味かなあ?』

私 :『例えば、上の纏めで、中国人は『友人のカネ、モノ、コネ、情報は自分のモノ、自分のカネ、モノ、コネ、情報は友人のモノと考える傾向強し』と書いたよね?? A 君には、なぜ僕が敢えてこういう極端な表現をしたかについてじっくり説明したから、この言葉の真意がわかるよね? でも、もしA 君がいきなりこのフレーズだけ聞いたらどう思う??』

A 君 :『そうだなあ、中国人には私有財産の概念がないのかなあ?と思っちゃうね。』

私 :『でしょ〜。ホフステードモデルも含め、どんな理論やモデルも、単に世の中の膨大な営みからある傾向を見出し、それを単純化、抽象化したもの。つまり、当たり前だけ理論やモデルをベースに現実があるわけではなく、現実をろ過抽出したものが理論やモデルだって事を忘れちゃいけないんだ。』

A 君 :『そうかあ、一発で異文化を奥深くまで理解するなんてそんな都合の良い道具はないって事か。苦笑。。』

私 :『そういう事だね。。例えば、仮にホフステードの集団主義スコアが全く同じでも、中国とバングラデシュのそれは無論、『集団主義』という大枠ではかなり共通性はあると思われるけど、その成り立ちや性質はやはりかなり違うわけ。だから、当たり前だけ、中国とバングラデシュの集団主義は全くの別物。だから、このモデルでさえも、あくまで『異文化を見る際の頼もしいナビゲーター』という程度の位置付けにすべき。そのスコアだけ見て表面的に理解した気になるのが一番危険。スコア全てが現実を表している保証だってない。だから『なぜ?なぜ?』って表面に現れたスコアを良い意味で批判的に追求する姿勢がないと、データに呑みこまれてしまうよ。この点は十分注意が必要だね。便利であるが故の危険性はホフステードも勿論認識されていて、事あるごとに警笛を鳴らしていたと聞いているよ。』

A 君 :『なぜ?なぜ?かあ。。そう考えていくと、そもそも、中国人の内集団の仕組みのベースとなった関係(グアンシー)なるものが、なぜにこれ程迄に発達したのか、その根本原因はなんだろう? なぜ同じ漢字、儒教文化圏の日本との間でこれだけ違いがあるのか気になってたまらなくなってきたよ。。』

私 :『そうそう、その調子! その『なぜ?』を待っていたよ! 実は同じ疑問を僕も持っていて、何とか自分の中で腹落ちさせたくて、長い間様々な書物に当たりつつ思考を巡らせてきていたんだ。勿論、よくある中国の異民族との攻防も含む長い戦乱と激動の歴史、それに伴う王朝の交代の激しさといった要因等から、『公』に安心は見出せず、頼りになるのは自らの地縁血縁を中心とした内集団のみだったから。という説もそれなりに説得力はあるし、恐らくそれは正しいと思う。ただ、個人的にはそれだけではどこか決め手に欠けるなあ〜ってずっと思っていたんだ。そして苦節〇〇年、最近ようやく、もしかしてこれでは? ?というかなり有力な仮説が自身の中で湧き上がって来たんだ。。』

A 君 :『え〜〜! どんな仮説??? 教えて、教えて〜。』

私 :『その仮説と言うのは、この関係(グアンシー)というものを発達させた端緒は、実は、ある古代の皇帝が断行した『人為的な改革』に由来するのでは?というもの。ま、これは今、種々の書物に当たりながら自身で検証作業を始めたばかりなので、いずれまた時期がきたら披露するよ。。笑。という訳で、今回の話はこの辺りでお開きとしておこうか。。長時間、小難しい話に付き合ってくれてどうも有難う!』

という訳で、今回の連載はこれにて終了とさせていただきます。元々は2回シリーズでお届けする予定でしたが、書き始めたら、あれよあれよという間にその⑦まで来てしまいました。徒然なるままに書いた纏まりに欠ける文章に御付き合い頂き誠に有難うございました。。

=====END=====